

防災の日備え大切

2015年9月の関東・東北豪雨で、鬼怒川の堤防が決壊するなどして大きな被害を受けた常総市は、「防災訓練を市立小中学校全19校で一斉に行つた。このうち6校では児童生徒が「マイ・タイムライン」作りを学び、自身の命を守る方法を考えた。



6校で児童ら「マイ・タイムライン」作り学ぶ

給水手順を確認



折りたたみ式給水タンク内の水を移し替える訓練をする参加者(1日、水戸市で)

*水戸断水想定

水戸市では1日、災害で
水道施設が被害を受け断水
が起きたとの想定で給水訓

練が行われた。トレックの荷台で、プラスチック製の折りたたみ式給水タンクを組み立て、中にビニール袋を設置。給水機から約1ト

ツクで運び、別の場所にあ
る同様のタンクに、エンジ
ンポンプを使って水を移し
替える手順を確認した。

訓練は市水道部白梅資材
置場で行われ、同部や市管
工事業協同組合から約45人
が参加。終了後、同部の伊
藤俊夫部長は「限りある人
員で給水ができるよう訓練
していきたい」と話し、組
合の石田賢司理事長は「市
民の安全安心に貢献してい
きたい」と話した。

マイ・タイムラインは水害などを察知した際、自分がどんな行動をとればいいのかを事前に時系列にまとめた防災行動計画。県内では「常総水害」を教訓に、国・県・鬼怒川・小貝川流域自治体などで作成が進められている。

常総市立三妻小ではこの日、全児童が七つの教室に分かれ、国土交通省下館河川事務所の職員らのアドバイスを受けながら、マイ・タイムライン作りを体験。

「川の水が堤防すれすれになつてからでは間に合わない。前もって準備し、避難することの大切さがわかつた」
6年目の深谷明輝君(11)は

体育館に泊まり、電気がストップしたとの想定で、避難所生活を体験した。

LEDランタンなどで明かりをとりながら、体育館内でそれぞれの居住スペースを決定。段ボールベッドを設置して就寝する場所を確保した。2年の平塚聖哉君(13)は「実際に避難したときは怖かった。床のままで眠れなかつたけど、きようは段ボールベッドがあるので体は楽です」と話して

避難所生活を体験

また、同市立石下中学校では午後に避難所の設営訓練が行われ、午後6時半から生徒と保護者の有志が体育館に泊まり、電気がストップしたとの想定で、避難所生徒を本陥とした。

防災行動のキーワードの書かれたカードを並べ
え、「マイ・タイムライン」を考える児童たち（1）
曰、常総市立三妻小学校で）＝谷口博哉撮影